

Twinkle No.4 2017.05.01

川崎こどもクリニック附属病児保育室リトルスター <http://www.kawasaki-kc.jp/littlestar.html>

〒597-0102 貝塚市木積 607-10 TEL/FAX 072-446-0415 little-star@kawasaki-kc.jp

B型肝炎ワクチン

昨年 10 月より定期接種となりました。それ以前から任意接種という形で受ける子どもさんもありましたが、定期接種になり接種率は格段に高くなっています。

では、B型肝炎とは何でしょうか。B型肝炎ウ



イルス (HBV) は感染した際の年齢や免疫状態で症状が違ってきます。おおむね 3 歳以上で感染すると、ほとんどの場合急性肝炎という形を取ります。症状は比較的ゆっくり進行し、微熱、食欲不振、全身倦怠などの症状がみられ、引き続き黄疸が出現します。ただし、黄疸が出現するのは成人で 30~50%、小児では 10%以下です。重症な場合以外では、これらの症状は 1 か月程度で回復し、HBV が体に残る (キャリア化) することはほとんどありません。ただし、従来から国内にいるタイプでなく、最近中国や東南アジアなどから入ってきているタイプの HBV では年齢が大きくてもキャリア化しやすいことが知られています。

一方で、出生時または乳幼児期に感染を起こすと持続感染を起こします。そうなった場合、大部分は肝機能正常なキャリアとなり、その後免疫能が発達するに従い、顕性または不顕性の肝炎を発症します。最終的にその大部分は肝機能正常の無症候性キャリアへ移行しますが、10%あまりが慢性肝疾患 (慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌) へ移行し、肝機能異常が持続するとともに、命に関わる病気とつきあっていくことになります。

感染は血液や体液に含まれる HBV が原因となり、輸血などをきっかけにうつるものと考えられていました。しかし今は、日本赤十字社の努力や検査レベルの向上により輸血でうつる B型肝炎はほとんどありません。問題となっているのは、汗や涙などが原因でうつった可能性のある事例です。相撲部内での流行例、保育所内での流行例などの報告がそれです。それを防ぐには、子どもたちすべて、そして保育などに関わっているスタッフすべてがワクチン接種をして十分な免疫を持っていることが大事です。接種は、基本的には 4 週の間隔でまず 2 回、2 回目の接種から 4~5 か月後に 3 回目という 3 回接種となります。

ヒトメタニューモウイルス

最近耳にするようになったウイルスの名前ではないでしょうか。発熱、咳、鼻水、そして喘鳴があり、乳幼児で重症化しやすい感染症を引き起こします。と書くと、おそらく何人かの方は「それ、RSウイルスのことじゃないの」と思われたかもしれません。ウイルスは違うのですが、症状は似通っています。気道分泌物がやたら多くなるというのが症状の原因で、鼻水をこまめに吸ってやったり、吸入して去痰を促したりという対症療法しか

ないというのも同じです。ただ違うのは、RSウイルスが主として晩秋から初冬に流行するのに対し、ヒトメタニューモウイルスは 3~6 月という春の時期に流行の中心があるということです。最近迅速診断できるようになりましたので病名がついて保育所でも認識しつつあるとは思いますが、以前はおそらくは「何か春先になると時々ゼーゼーという風邪ひきが流行って、お休みしたりする子が多いね」くらいであったのだらうと思います。